

ドジョウ養殖試験

担当者 課長 頼 茂
技師 青山 禎 夫

I 目 的

抽出ホルモン剤を使用してのドジョウの人工採卵と、箱飼い池飼育による親魚の養成試験を行い養殖技術の確立化を計る。

II 試験方法

抽出ホルモンにはゴナトロピン・プベローゲンを使用、養成試験は箱飼いと池中養成を行つた。

III 試験内容

(1) 試験場所

本場・黒石養魚場

(2) 試験期間

昭和41年4月～11月

(3) 試験項目

(イ) 人工採卵

(ロ) 箱飼い試験

(ハ) 池中養成試験

IV 試験結果

(イ) 人工採卵

人 工 採 卵 結 果

第 1 表

ホルモン名 注 射 単 位	全 長 cm	体 重 g	注 射 月 日 時 間 ・ 水 温	採 卵 月 日 時 間 ・ 水 温	採 卵 可 否	採 卵 率
ゴ	30	14.7	8月24日 17時00分 21.8℃	8・25 09.00 21.6℃	×	0%
		13.2			×	
		13.2			×	
		12.7			×	
		13.0			×	
ナ	50	13.4	8・5 20.00 24.5℃	8・6 08.00 22.1℃	○	20
		14.7			×	
		15.2			×	
		12.8			×	
		12.7			×	

ホルモン名 注射単位		全長 cm	体重 g	注射月 日 日 時間・水温	採卵月 日 日 時間・水温	採卵可否	採卵率
ト ロ ビ ン	80	14.2	16.0	8月24日 17時00分 21.8℃	8月25日 09.00 21.6℃	死亡	40
		13.2	16.0			○	
		13.5	15.0			×	
		12.5	12.0			×	
		12.5	12.0			○	
	100	13.3	14.5	8・26 17.00 21.9℃	8・27 17.00 21.5℃	○	80
		12.8	12.0			○	
		14.6	14.0			○	
		12.8	12.6			×	
		13.1	14.0			○	
	150	12.7	13.2	8・26 17.00 21.9℃	8・27 09.00	死亡	80
		14.3	16.0			○	
		12.9	14.0			○	
		13.4	15.0			○	
		13.0	14.0			○	
プ ペ ロ ー ゲ ン	100	12.6	13.0	8・26 17.00 21.9℃	8・27 09.00 21.5℃	○	20
		13.8	15.8			死亡	
		13.6	15.7			×	
		13.6	15.2			×	
		12.9	15.0			×	

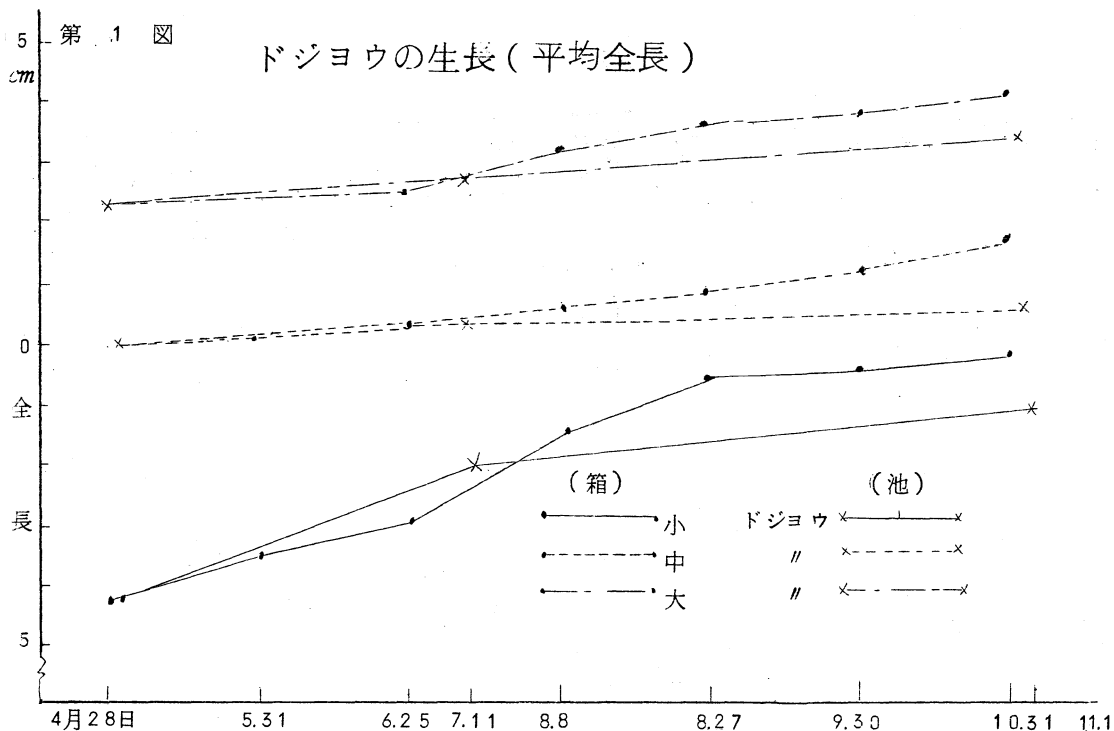
抽出しホルモン剤により採卵を行い第1表のような結果を得た。

(i) ゴナトロピンを♀1尾につき80単位以上注射すれば採卵可能になる。

(ii) 使用する♀は腹部が柔く透通っているものを用いる必要がある。

(iii) ♀は♀に較べて少数なのであらかじめ必要数を確保しておくことが望ましい。

(ロイ)箱飼池養成試験



第1図に示すように箱飼による養成が池養成より良い傾向がみられた。またこの試験から

(i) 生長するにつれて死亡率が減少する。

(ii) 生長率についても小型ドジョウの方がよく、大きくなるにつれて伸びが悪くなる。

考察および今後の課題

人工採卵による種苗の生産と商品化出来る親魚の養成の各々について技術的な困難はないと思われるが、ドジョウは逃亡性が高いので施設の造成に際しては注意が必要である。

今後(42年)は採卵から養成までの一貫した試験を行う予定である。